

研究発表①

1 階

(第2会場：4F視聴覚室)

■司会 市木 良子 福岡県犀川町立犀川中学校 教諭
中野 孝司 高知県吾北村立清水第一小学校 教頭

午前

1. 子ども会の組織化、活性化、ジュニアリーダーの自立化

— 豊野町子ども会の発展史に見るジュニアリーダーの役割と意味 — 10:45~11:10

東田 誓〈熊本県〉 豊野町子ども会育成会 会長

子ども会の活力はそれを見守る育成会の発想と思想が鍵になる。子ども会の組織化も活性化も、子ども自身の主体性が活かされない限り達成は困難である。豊野町ではジュニアリーダーの自立化が子ども会発展の鍵になるという視点で、研修、支援を続けている。ジュニアリーダーの輪が広がり、その活動を通して、子ども会を支える人材が確実に育ってきている。

2. 青少年の社会貢献機会の創造

— 大分県青少年ボランティアセンターの試行錯誤 — 11:10~11:35

工藤 喜賀〈大分県〉 大分県青少年ボランティアセンター 前ボランティアコーディネーター

社会は子どもたちの為に様々なプログラムを提供してきた。しかし、子どもたちは社会の為に必ずしも十分な貢献をしていない。青少年ボランティアの目的は、学校外活動の促進とボランティアマインド（社会貢献の精神）の醸成である。センターは青少年の自己負担を軽くするため活動の経費を支援し、広く県内にボランティアの受け入れを呼びかけた。発展の鍵は各市町村における青少年ボランティアコーディネーターにあると想定している。

3. 「一人前」の予行演習

— ふるさと貢献に挑戦する「子どもヘルパー」事業 — 11:35~12:00

井 隆博〈熊本県〉 産山村教育委員会 社会教育主事

子どももむらおこしの主体となりうる。「子どもヘルパー事業」は、子どもの地域貢献力に着目し、高齢社会の役割を引き受ける活動舞台を設定した。結果的に子どもからも、お年寄りからも、活力を引き出すことに成功した。主催は社会福祉協議会であるが、教育委員会と学校の協力なくしては実現しない。「学社融合」の事業でもあり、「社会が子どもたちのために何ができるか」から「子どもたちが社会のために何ができるか」へと発想の転換を実現した事例でもある。

4. 総括討論

12:00~12:30